

# ちょっと昔のお兄さんお姉さんが戦争を語る会

司会 畑石(老いも若きも読書会)

## I. 戦争を語る会の進め方について

- ・ 5人の語り部の方に15分～20分お話をしていただき、その後、参加者の皆さんからの質問や同じような体験をした方がいればその経験(両親や祖父母から聞いた話でも結構です)を受け付けます。
- ・ 5人の方のお話が終わった後、再度質問や体験談を受け付けます。

## II. 戦争を語る会次第

1. 主催者挨拶 老いも若きも読書会代表 西原

2. 語り部の皆さんのお話

語り部の皆さんは15分～20分の限られた時間では全てを語ることはできないかもしれませんが、語っていただく内容と順番は以下のとおりです。

### ① 斉藤順子さん(久保ヶ丘在住)

- ・ 戦前の景色
- ・ 16年太平洋戦争勃発
- ・ 軍事工場
- ・ 敵機来襲
- ・ 警報が昼夜鳴り響き激しさを増す 36発の爆弾投下
- ・ 集団疎開、縁故疎開が始まる
- ・ 千葉県九十九里浜へ疎開

- ・ 漁村での平穏な日々を過ごす
- ・ 村の学校生活、初めて見る毛じらみ、体の毛虱日々
- ・ しかし戦争が悪化し、登校仲間の友、機銃掃射犠牲
- ・ 茨城空港、目標、いとこの家族山梨へ
- ・ 残る孫に祖母が残る 東京の両親
- ・ 昼夜防空壕生活
- ・ 低空で撃ちまくる弾が竹やぶに
- ・ 上陸作戦 艦砲射撃
- ・ 敗戦

## ② 齊藤哲さん(松ヶ丘在住)

- ・ 満蒙開拓の青少年義勇隊とは?
- ・ 1939 年日本国は満州国を建設
- ・ 以降、1945 年まで続く
- ・ 日本国軍部(関東軍)の政策により、ソ連への侵略が目的で満蒙開拓団、青年義勇軍が犠牲になった
- ・ 私の父は青少年義勇軍の訓練場のあった茨城県内原訓練場で若い青少年に指導をし、送り出した一人
- ・ 軍部の命令に従った末に過度な労働のため終戦の 12 月に死亡
- ・ 軍隊でなかったため、何の補償もなくこの世を去った

## ③ 齊藤篤俊さん(久保ヶ丘在住)

- ・ 広島の子に生きていたため原爆の被害は受けなかった
- ・ 終戦間際、兄が死ぬのが判っているのに軍隊に送り出した両親の気持ち

④ 塚原三千勝さん(ひがし野在住)

- ・ 戦時中守谷で体験したこと(終戦時、-1945-私は 10 才の少年でした。)
- ・ 終戦当時の事も含めて話したいと思います

⑤ 岡本通子さん(松前台在住)

- ・ 一億玉碎について
- ・ 戦中戦後の食糧難について(生活について)
- ・ 学童疎開の事
- ・ 20 年の 9 月に進駐軍が駐屯した
- ・ 戦後の直後の人々の変化
- ・ 学童軍事訓練について(竹やり なぎなた など)

Ⅲ. 全体での質問や体験談について